

ゼンコロ前会長・調一興さんの著作選集「明日をひらく言霊」



発行 社団法人ゼンコロ

重い障害のある1人ひとりの可能性を見出すこと
障害者の労働権の保障
家族依存型福祉からの脱却…

創造こそ、私たちの仕事！

◇結核による低肺機能の身を挺し、その実現に向けて最後までエネルギーを注いだ調一興の提言は、今なお斬新さを放ち、現在の閉塞状況を拓くヒントに溢れている。

もくじより…障害者と労働・ヨーロッパに学ぶことはまだ多く残っている・就労と人権・費用徴収制度の意味・家族主義から脱却した福祉システムの構築を・障害者の中の障害者差別・障害者の範囲を国際基準に・てんかんの福祉法適用へ向けて・欠落している自閉症者の福祉政策・精神障害者福祉の背景と課題・改めたいタテの幣・障害児教育の現状・障害者と消費税・障害等級制度への問題提起・障害者運動、その力量を高めよう 全64編

編集:藤井克徳、佐藤久夫、小川浩、河村ちひろ ほか

四六版・336頁・定価 2,500円

お申込みは

社団法人ゼンコロ事務局 〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7

TEL:03-3952-6166 FAX:03-3952-6664 MAIL:higuma@tocolo.or.jp

WEBマガジン福祉広場

編集長の毒吐録

(2011年6月8日)より

『明日をひらく言霊(ことだま) 調一興著作選集』(調一興、社団法人ゼンコロ、定価2500円)を読んだ、その筆に驚かされた。問題をとらえる力が正確であり、そのとらえた問題が重要で、問題の提起が根本的だ。その結果、かなり前の論説が古くなっていないという特徴をもっている。

調一興(しらかずおき)さんは2005年に78歳で亡くなった障害者運動のリーダーで、肺結核で長く入院生活を経験した人。軽印刷など事業にも手腕を発揮、ハンセン病回復者などの雇用につとめるなど、障害者雇用でも名を残した。長く社団法人「ゼンコロ」(1961年創立、現在全国12の社会福祉法人で構成している事業体。3000人を超える人が働いている)

とりわけ著者は、創立30年を迎える日本障害者協議会の役員として活躍したが、「完全参加と平等」の考

えに貫かれた論説でもあった。本書は著者の600本余の原稿から64本まで絞り込んで4つに分類(労働、所得補償と扶養義務、障害の範囲、運動―生き方)したものだ。膨大で精力的な執筆に圧倒される。

著者の筆は「完全参加と平等」を妨げている制度や施策に向かう。同時に、あるいはそれ以上に鋭く、批判が「内部」にも及ぶ。叱咤激励とも言えようか。障害者雇用の事業所が「低工賃」のままに推移している現状を憂える論考は、「経営者」への根源的で鋭い批判となって、いまなお有効だ。

著者は、障害者を特別なもの、憐れみの対象としての見方を拒否する。「国民」と同じ権利が保障されねばならないと主張する。妥協はない。この視点もいまなお有効だ。「障害者」であれば、「障害者のことが分かっている」ということを手掛かりにする著者の思想の広がり、障害者問題を広く社会全体の問題の広げる上で、示唆に富んでいる。